

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00189

研究課題名(和文) 伊藤若冲作品の画と賛 禅僧賛の読解・禅僧との交流を踏まえた作品と伝記の研究

研究課題名(英文) Ito Jakuchu's Paintings and Their Inscriptions: Research on his Works and Biography through Zen Monks and their Poetry

研究代表者

門脇 むつみ (Kadowaki, Mutsumi)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・准教授

研究者番号：00406779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：3年間を通じて次の3点を行った。伊藤若冲作品の画賛の読解。禅文化および美術史研究者、学生からなる研究会を初年度の9月を初回として原則月1回、総計31回オンラインで実施した。その成果に基づく書籍の2023年度中の刊行を予定している。若冲に関わった禅僧資料の探索。近畿圏の市町村史等の資料を探したが十分にはできていない。ただし、3年目にコロナ禍の状況変化により、実作品の調査撮影を相当進めることができ、若冲作品の造形的特徴への理解、作品附属情報の収集、禅僧賛の書体や印章の確認等において進展があった。若手研究者の漢詩文賛読解能力の養成は研究会および書籍準備によって一定の成果をあげた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

【研究業績の概要】に記載の通り、本科研の特に、の成果公表として画賛読解の研究会参加者の共同執筆による書籍を刊行する予定である。本書は若冲作品60点弱の賛を徹底して読み解くことを大きな特徴とし、近世絵画にみる禅僧賛読解の方法論を提示する学術的意義は少なくないと考えている。また、それを通じた若冲の絵画世界への理解、近世絵画における禅僧賛と画家の絵の交響、禅文化と関わる若冲の画業の輪郭の捉え直しでもある。さらに若冲は、現在、一般にもきわめて人気が高く展覧会等で作品が展示される機会も多いが、賛の読解に基づく若冲の絵画世界理解の深化は、若冲の魅力を新たに紹介することにつながる。

研究成果の概要(英文)：During three years of research, I conducted the following three objectives. (1) Reading inscriptions of Ito Jakuchu's paintings. I conducted a research group consisting of researchers and students of Zen culture and art history, and held a total of 31 online meetings. Based on the results, we plan to publish a book in 2023. (2) Search for Zen monks' materials related to Jakuchu. I could not do enough, due to the corona disaster. However, in the third year, I was able to make considerable progress with the research and taking photos of the actual works. As a result, our research group achieved results in understanding the formative characteristics of Jakuchu's works, collecting information attached to the works, and confirming the features of calligraphy and seals of Zen monks. (3) Cultivate the reading comprehension ability of Chinese poetry for young researchers. This has achieved certain results through workshops and preparations for the book to be published.

研究分野：美術史学

キーワード：若冲画賛 禅文学 黄檗宗 水墨画

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

江戸時代中期の画家・伊藤若冲(1716～1800)は近世画家のなかでも一般の人気も高く、展覧会が多数開催され、書籍をはじめ研究の蓄積も多かった。しかし、未だ解明すべき課題は多く、そのなかで禅宗との関わりはその大きな鍵と考えられた。若くから肉食や妻帯をしない禅僧のような生活を送り50歳後半で黄檗僧となったと推定されること、禅僧との交際が知られ禅僧の着賛のある作品も多いこと、また黄檗宗の画僧の作品と画題や図様そして様式的な影響関係が認められること等が指摘されている。ただし、上記のような指摘はあっても、個々の作品について、その画題や図様を禅文学や禅的思想との関係で具体的に考察する研究は決して多くはなく、個々の作品が禅的な教養や思想と関わっているのか否か、関わっているならば具体的にどのような点かが具体的に説明されたことは数えるほどしかなかった。それは、まずは若冲作品の禅僧賛の読解が等閑にされてきたこと、そして美術史研究においては画像の検討が優先されがちであること、また禅僧の賛が美術史研究の領域を大きく超えた禅的思想や漢文学の知識なくしては十分な読解が不可能であることによると考えられた。しかし、作品を検討するにあたり、画像と同じ画面に記され画と一体となって作品をつくる賛の読み解きは作品理解のために不可欠である。また賛の検討は、着賛のある作品のみならず着賛はないが同画題やモチーフを扱う作品の検討にも有効であり、本科研においては、禅学の研究者の協力を得て、そうした目的に取組みたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は(1)禅僧賛の読解と美術史の視点による画像の分析をあわせた作品の読み解き、(2)賛者である禅僧についての研究もすすめ彼らと若冲の関係の把握およびそれに基づく若冲の制作環境の検討、(3)それらを通じて美術史研究者(特に若手)の画賛読解能力を養成することとした。

3. 研究の方法

上記目的達成のため、次の方法で研究を行った。(A)若冲作品のうち禅僧の着賛のあるものについて画像・賛者・賛の内容等を一覧するデータベースの作成。所属する大阪大学の大学院、学部学生によるアルバイトによった。(B)2020年9月を初回として原則月1回、総計31回の画賛講読の勉強会をオンラインで実施した。代表者を含む参加者が画賛のある作品の賛の読解を行うとともに、読解を踏まえた作品の解釈、同図様や同画題作品との関わり等の考察を発表した。賛の読解については芳澤勝弘氏(研究協力者・禅文化研究者、花園大学国際禅学研究所顧問)の指導を受け、その他、参加者で作品の位置付けや図様や画題について検討協議した。(C)特に重要な作品の実見調査。(D)若冲作品の着賛者である禅僧の伝歴や詩文集等の探索と検討。

4. 研究成果

目的(1)については方法(A)および(B)より、禅僧賛のある若冲作品の賛の読解およびその位置付けを進めることができた。成果として、門脇と研究会メンバーの池田泉・國井星太共著論文1点(「若冲画賛の研究 竹図・海老図・鯉図」『大阪大学大学院文学研究科紀要』62号)、門脇単著論文1点(「《蝦蟇帖》(大阪大学総合学術博物館蔵)とその周辺 江戸時代中後期の蛙図ブーム」『大阪大学大学院文学研究科紀要』63号)がある。また、31回の研究会で取り上げた作品を中心に、画賛読解と考察をまとめた書籍の刊行(2023年度中)を準備している。また、(3)

は研究会での発表および書籍の原稿執筆を通じ、相当程度、実現できた。そして主に(2)の達成のための方法とした(C)、(D)はコロナ禍で最初の2年間はほとんど実施できなかった。(D)は自治体史料等から関係情報を収集するに留まり、実際の調査はできなかった。しかし(C)は最終の2022年度に国内の主立った作品の調査ができた。その結果、若冲作品の造形的特徴への理解、作品附属情報の収集、禅僧賛の書体や印章の確認等において研究を進めることができた。それらのうち主立ったものについて、上記書籍にて報告予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 門脇 むつみ、國井 星太、池田 泉	4. 巻 62
2. 論文標題 若冲画賛の研究：竹図・海老図・鯉図	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 93～144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/87428	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門脇 むつみ	4. 巻 63
2. 論文標題 《蝦蟇帖》（大阪大学総合学術博物館蔵）とその周辺：江戸時代中後期の蛙図ブーム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 199～238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/91251	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 絵入本学会：絵入本ワークショップX	開催年 2022年～2022年
-----------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------